

令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

道府県・政令市名【宮城県】

学校名【東松島市立矢本第二中学校】

|                    |   |
|--------------------|---|
| 1 実践テーマ            | ①・Ⅱ・㊦・Ⅳ・Ⅴ（複数選択可）  |
| 2 実施対象者<br>（学年・人数） | 1学年126名   |
| 3 展開の形式            | （1）学校における活動 次の5つのうちから選択し○をつけてください【複数選択可】<br>①教科名（○ 保健体育 ）<br>「パラリンピアンからバリアフリーを学ぼう」<br>「車いす体験，高齢者体験，白杖体験」<br>②行事名（○ オリパラ講演会）<br>③その他（○ 旗の設置やポスター掲示，オリパラ掲示コーナーの設置）<br>（2）地域における活動<br>①イベント名（ ）<br>②その他（ ） |
| 4 目標<br>（ねらい）      | オリンピック・パラリンピックへの関心を高める。また、「見る・行う・支える・調べる」など多様な関わり方に気付かせ、国際的な交流を進んで行う生徒を育成する。  |
| 5 取組内容             | ○国際パラリンピック委員会公認教材「I'mPOSSIBLE」を用いたバリアフリーの学習<br>○トリノ・バンクーバー・ソチ3大会連続パラリンピックスキー競技代表、及び2020パラテコンドー代表太田渉子選手によるリモート講演と応援旗の作成  |



○東北文化学園大学との連携による障がい体験



6 主な成果

○パラノルディックスキーメダリスト太田さんが新たな種目へ挑戦することへの思いを聞き、生徒の向上心を高めることにつながった。  
 ○パラリンピックで他国選手との交流により自分を鼓舞した話を伺い、生徒自身がスポーツに向き合う気持ちが高まった。  
 ○バリアフリー社会の必要性を実感するとともに、これまで目を向けていなかった障がいを持った方との共生社会の構築に向けての意識を高めることができた。

7 実践において工夫した点  
 (事業の特色)

○新型コロナウイルス感染対策のため、本校で講演していただく予定を変更し、リモートでの講演とした。  
 ○身近なバリアフリー設備や、障害のある方が日常の社会生活で感じることを事前学習したことにより、講演会や体験会に興味を持って参加した。  
 ○障がい体験では、連携協定を結んでいる大学の教授や学生に、必要な物品や活動の場の設定、グループでの体験方法の指導など多大な協力をいただいた。

8 主な課題等

○1学年を対象に学習を進めてきたが、全校生徒でできればなお良かったと感じる内容であった。  
 ○新型コロナウイルス感染予防のための休校による学習指導時間確保との兼ね合いは難しかった。  
 ○障がい体験に必要な物品は学校で揃えるには膨大な予算が必要になる。

9 来年度以降の実施予定

○オリンピック・パラリンピック聖火リレーの時(6/20)に、沿道での応援を予定している。  
 ○障がい体験の連携実施について、次年度以降も継続して行く事を大学サイドと確認している。